

試験研究成果普及情報

部門	果樹	対象	普及
課題名：ビワの新品種「なつたより」の品種特性			
〔要約〕 ビワの新品種「なつたより」は果肉が軟らかく、甘味が強く、良食味である。また、大果で外観美麗であるため、商品化率が高く、市場出荷用品種としても有望である。果実の耐寒性がやや弱いため、寒害を受けにくい園地が栽培に適している。			
キーワード ビワ、品種、なつたより、果実特性、良食味			
実施機関名	主 査	農林総合研究センター・暖地園芸研究所・果樹・環境研究室 協力機関 (独)農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所、 長崎県農林技術開発センター	
実施期間	2003年度～2010年度		

〔目的及び背景〕

本県はビワの経済栽培地域の北限という厳しい気象条件であるため、露地栽培では、比較的耐寒性のある「大房」（66%）、「田中」（29%）が普及している。両品種とも大果で外観品質に優れるが、熟期は他県産に比べると遅く、糖度がやや低く食味は中程度であるため、生産者からは、早生で良食味である新品種の導入が要望されている。

そこで、新品種育成を実施するとともに、本県の栽培に適応性のある品種を選定するため、長崎県農林技術開発センター（平成22年度まで国の指定試験地）の育成系統に関する系統適応性検定試験に参加している。平成15年度から実施した第3回系統適応性検定試験において、「長崎15号」は品質が優良と認められ、平成21年に品種名「なつたより」として品種登録された。

〔成果内容〕

1 育成経過

「なつたより」は平成2年に「長崎早生」を母親とし、「福原早生」を交配した交雑実生で、平成21年2月26日に品種登録され、県内でも栽培がはじまっている。

2 樹の特性

樹姿は直立性で、樹勢はやや強である（表1）。側軸の着生方向はやや上向きである。

3 果実特性

果実の熟期は6月上旬で「涼峰」を除く全ての対照品種より早い。果皮色は橙黄で（表1）、果形は長卵である（図1、2）。果重は71gで「大房」及び「田中」より小さいが、「涼峰」及び「房光」より大きい。糖度は高く、酸含量は低く、程よい軟らかさの食感で、食味は良好である（表2）。果実の障害の発生は少ない。果実の耐寒性は「涼峰」と同様にやや弱い。

〔留意事項〕

- 1 樹姿が直立性で、樹勢はやや強であるため、若木のうちから誘引が必要である。
- 2 紫斑症の発生はほとんど見られず、果実袋はビワ5号袋（小林製袋産業(株)）で対応できる。
- 3 果実の耐寒性はやや弱いため、寒害を受けにくい園地における栽培が望ましい。

- 4 本県では施設栽培における調査データはないが、長崎県、香川県の調査では露地栽培に比べ、果実の生理障害（裂果）がやや多い傾向が見られる。
- 5 苗の入手は許諾を得た種苗会社から可能である。

[普及対象地域]

県内のビワ栽培地域

[行政上の措置]

新品種・新果樹導入調査事業（生産販売振興課：平成23～27年度）を実施中である。

[普及状況]

平成22年度末時点で、安房地域で苗木100本が導入されている。

[成果の概要]

表1 「なつたより」の樹の特性、果実外観

品種名	樹姿	樹勢	側軸 着生 方向	熟期 (月.日)	果実の外観		
					果皮 の色	果実の 大きさ (g)	側面 の形
なつたより	直立性	やや強	やや上	6. 3	橙黄	71	長卵
涼 峰	直立性	やや強	やや上	6. 2	橙黄	68	短卵
房 光	開張性	中	やや下	6.11	橙黄	67	短卵
大 房	直立性	やや強	下	6. 8	橙黄	79	短卵
田 中	開張性	中	やや下	6.17	橙黄	77	短卵

- 注1)「なつたより」：平成15年定植、平成18年～22年の5年間の平均(表2も同様)
「涼峰」及び「房光」：平成9年定植、平成11年～22年の12年間の平均(表2も同様)
「大房」及び「田中」：昭和57年～平成22年の28年間の平均(表2も同様)
- 2)樹姿：開張性、中間、直立性から判定
 - 3)樹勢：弱、やや弱、中、やや強、強から判定
 - 4)側軸着生方向：下、やや下、中、やや上、上から判定
 - 5)果実側面の形：扁円、円、短卵、短楕円、長卵、長楕円の中から判定

表2 「なつたより」の果実特性

品種名	果肉			果汁		果実の障害			果実の 耐寒性
	色	硬度	食味	糖度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)	そば かす	裂果	紫斑	
なつたより	橙黄	やや軟	良	13.9	0.13	微	微	微	やや弱
涼 峰	橙黄	軟	良	13.9	0.13	甚	中	軽	やや弱
房 光	橙黄	中	やや良	13.2	0.29	軽	微	軽	やや強
大 房	橙黄	中	中	11.1	0.20	微	微	軽	強
田 中	橙黄	中	中	11.0	0.33	軽	軽	微	やや強

- 注1)果肉の硬度：軟、やや軟、中、やや硬、硬から判定
- 2)食味：不良、やや不良、中、やや良、良から判定
- 3)糖度：屈折糖度計によって測定した可溶性固形物含量
- 4)酸含量：水酸化ナトリウムで中和される酸の含量をリンゴ酸 (g/100ml) に換算した値
- 5)そばかす、裂果、紫斑：無、微、軽、中、甚から判定
- 6)果実の耐寒性：弱、やや弱、中、やや強、強から判定



図1 着果状況



図2 果実の縦断面（左）と横断面（右）

[発表及び関連文献]

平成20年度試験研究成果発表会（果樹部門Ⅱ）

[その他]

指定試験事業「ビワ系統適応性検定試験」（平成15～22年度）